

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191700091		
法人名	有限会社トータルケア		
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所 ケアホームあじさい		
所在地	岐阜県恵那市明智町1115番地1の1		
自己評価作成日	平成25年12月10日	評価結果市町村受理日	平成26年4月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2013_021_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2191700091-00&amp;PrEfCd=21&amp;VerSi.onCd=021">http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2013_021_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2191700091-00&amp;PrEfCd=21&amp;VerSi.onCd=021</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成26年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の必要な介護を最優先に考え、柔軟度の高いサービスが出来るよう心掛けております。住み慣れた地区で、馴染みの人たちと末永く暮らしていただける施設です。常習的にボランティアさんを受け入れ、楽器演奏・歌・カラオケ大会・手品・ものまね・詩吟・踊り等を実施し、地域密着し開放されたホーム作りを日々行っております。また施設面では川に面した側に約60畳のウッドデッキ、畳敷きの浴室などご利用者様がゆったり安全にお過ごし頂けるような工夫もされております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念にそって、住み慣れた環境の中で、馴染みの住民と行き来しながら、管理者と職員は、事業所の特性を活かし利用者・家族のニーズに柔軟に応える工夫をしている。ケーブルテレビで毎日事業所の現状を流したり、あじさい新聞を配布したりしながら事業所を知ってもらう努力をしている。季節に合わせた外出行事も豊富で、利用者の希望に合わせ、買い物、外出に出かけている。地域の行事にも積極的に参加し、地域で伝えられてきた行事や、食べ物、保存食、土雑作りなど、地域住民の協力を得ながら交流している。方言も利用者一人ひとりにあわせ、毎日、楽しく、笑いの耐えない支援をしている。報奨制度を設け、運営の活性化を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を室内に掲げ、いつでも確認できるようになっている、更にミーティング・新人教育・全職員研修の機会に振り返り職員に周知させ実践している。	会議や研修時に理念の意義を学習している。職員は、毎日朝礼で実践の事例を発表し、また、伝達ノートに書き留めて理念にそった介護ができていないか確認しながら実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し運営推進会議の委員に地区長や老人クラブ会長、振興事務所・消防署長等にも入って頂き、地域のお祭りへの参加や施設内の行事等にも声掛けし、積極的な交流を心掛けている。地域のケーブルTVでCMも放映しており毎日15秒×8回情報発信しております。	自治会の一員として地域行事に参加したり、事業所の行事は回覧板で知らせたり交流している。野菜・菓子・洗剤・オムツなどいただき物が多く「あじさい新聞」に載せ感謝を表している。地域住民との親密な交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症研修の呼びかけやボランティアの受け入れ、地域の会合へ参加し認知症の介護相談や説明を行い、地元自治会を対象に認知症サポーター研修も行いました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス利用状況や事業所の取り組み(事業報告、行事等)を報告し意見や要望を求めている、推進会議で決定した内容や取り組み事項についてはホーム内の研修等で全職員に報告し、周知徹底に努めている。	定期に開催し事業所の現状をメンバーに報告している。雪の日の送迎に感謝の言葉がある。しかしメンバーからの意見や要望の話題が少ない。議事録に会議の内容の記録がなく、家族に報告もされていない。	議事録を家族に報告し、メンバーから意見や質問など、引き出す工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	当施設はケアマネ事務所も併設しており、市主催のケアマネ連絡会に所属し、必要に応じて安心サポートの職員と連携を密にし、恵那市の介護相談員の受け入れ、市との協力関係が切れ目なく築けるよう日々恵那市と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	行政担当者(安心サポート)のところには、利用者・家族の相談、書類提出等に出かけている。介護相談員の受け入れや、住民向けに、認知症サポーター養成講座の開催にも協力している。担当者の来訪もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者を含め職員全員で研修を行ったり、ホール中央に身体拘束排除に関するマニュアルを設置し個別ケアについて職員同志で話し合い、ひとりひとりに合った最良のケアを心掛けている。	身体拘束・虐待は絶対しない方針を掲げている。会議の中で定期的に学習したり、話し合いの時間を設け周知している。車椅子から転倒防止にも、こまめに声かけし、見守りながら拘束しない工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は機会ある毎に話し、社内研修で取り上げ学んでいる、ホーム内外でもいかなる場合も虐待のないよう職員指導を行っている。実際に家族に虐待があった場合は恵那市へ報告する。		

小規模多機能型居宅介護事業所 ケアホームあじさい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在権利擁護、成年後見人制度を活用している利用者はいないが必要時に生かせるよう、成年後見人の職員に話を聞いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する前に希望があれば、利用体験を行ってサービスごとに詳しく説明を行っている。契約書については、内容説明後、家族によく読んで理解してもらうために、書類を家族に預け、検討期間をもうけた後、契約を結んでいる。解約時は、今後の方向性を確立したうえで手続きを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のモニタリング又連絡ノートを活用し、運営に反映している。利用者、家族との日常のコミュニケーションを大切にしており、ケアへの不満・要望などに思われる内容は職員会議で対応を検討している。	連絡ノートに記入したり、送迎時に家族との対話から要望を聞いている。時には訪問することもある。在宅での介護方法の相談に助言をしている。アンケートの意見を取り入れ、外出(買い物)の機会を多くしている。外部評価結果も公開している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング、日常会話の中での提案・意見を聞いて必要に応じて、話し合いの場を設け意見交換を行い、施設運営に生かしている。	会議でサービスの改善や、行事の企画提案をして話し合っている。車にナビの取り付け、機械浴の椅子の購入など運営に反映させている。管理者は定期的に職員と面談し意見や要望を聞いている。運営に関する優秀職員の報奨制度を設けサービスの改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は月1回のホーム内研修の場で意見交換を行ったり、職員個々と定期的に面談を行い、職場環境の整備などに努めております。資格取得の勧めや、年1回優秀職員を表彰し、やりがいがある職場を目指し努力しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月ホーム内研修を実施し、職員のスキルアップを図っている。また、随時ヒヤリングを行い働きながら学べるような環境を整えている。外部研修は必要に応じ、随時参加できるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会の全国大会に参加、また地元の複数事業所連携事業に参加し研修等に参加し同業者との交流を図り、勉強会の成果を質の向上に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の願いや希望を大切にしている。障害や認知があっても、まず一人の人としての尊厳を尊重し思いや願いを受け止め、共感することから支援を始めている。また、全職員で情報を共有し、共通認識を持ち、充実した援助ができるように周知徹底している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを傾聴し、安心してサービス利用ができるよう支援をしている。家族から得た情報はサービス担当者会議・ケア会議・ホーム内研修等で情報の共有を図り、利用者及び家族が満足できるサービスを提供できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期アセスメント時はできるだけ詳細に聞き取りを行い、プランに反映するように努めている。また、各専門スタッフと相談し、1日の生活がスムーズに流れるように、必要な支援を見極め初期プランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設生活の中で人生の先輩であるという謙虚な心(気持ち)で接し、昔の明智、唱歌、伝統、言い伝えなどを職員も人生の先輩に学び、生活を共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用中の出来事を、送迎時や自宅訪問の際に報告している。お便り帳での状況報告も行っている。また、送迎時には自宅での生活状況の聞き取りも行い、本人の生活リズムの把握に努めている。また、家族と話しをするときは常に相手の立場に立ち、傾聴の姿勢で接するよう徹底している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があれば地元のショッピングセンター、歯医者、病院、等に連れて行ったり、友人、知人、家族、近隣にも声掛けし面会を受けやすくしている。	散歩等で地域の友人知人に声をかけている。地域の祭り等に積極的に参加し、馴染みの人に出会った時には、来訪の継続をお願いしている。馴染みの店での買い物、理美容院、神社参拝の継続に心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話をされているときなどは随時利用者との間に入り、話題提供を行っている。日常生活上の小さなトラブルの仲裁にも率先して入りお互いが孤立しないで生活できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者宅へ訪問したり、関係者と連絡を取り合い、円滑な関係を保っている。また、入院中の場合は面会に行き、退院後の相談にも応じている。入所した後も、利用者と共に面会している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや願いを日頃からの関わりの中から、聞き出し支援につなげている。困難な場合は、本人の立場に立って考え、言動等から本心を読み取る努力を行いそれを、支援につなげている。	表情や様子の変化に気づいた時、入浴時・泊まり・送迎時など、1対1になった時に声をかけ思いや意向を聞いている。聞いたことは個別記録に残し会議などで話し合い情報を共有し実践につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から話を聞き、情報収集をしている。普段の会話や生活パターン、行動などからも情報収集を行い、今までの生活習慣に近い環境を整えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	小規模多機能型居宅介護計画書を全職員に把握できるよう支援記録に綴り、ホーム内研修でケース検討を行っている。また、また、日々の変化には随時必要な支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時ケアカンファレンスを実施し、本人や家族の意見や要望を反映した介護計画を作成している。また、寄り添う介護を実施している現場のスタッフの声を反映させ、本人の1日の生活がスムーズに流れるような支援を行っている。	介護記録や職員の気づきを会議で話し合い、家族の希望も相談しながらケアマネジャーが作成している。状態の変化があれば医師と相談し、家族とも連携しながら介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小規模多機能型居宅介護計画に沿ったサービスの提供を行い、利用時の様子、変化、異変や思いを日誌・申し送りノートに個別記入し情報を共有している。また、ケア会議・ホーム内研修にてケース検討を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービス計画書にとらわれることなく、本人の状況や家族の都合に合わせて柔軟的に通い・訪問・泊まりのサービスを提供できるように努めている。		

小規模多機能型居宅介護事業所 ケアホームあじさい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ひとりひとりの希望に応じて地域のイベントや各種見学などを行いボランティアの受け入れを積極的に行い利用者様を支援しています。また推進会議に振興事務所長・明智消防署長、老人クラブ、地区長がいるので、要望などを話し支援してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調を常時観察し、異常がみられるときには家族に連絡し必要に応じて医療機関への支援をしている。提携している内科医とも顔なじみの関係となり、その他の医療機関とも信頼関係を築きながら、利用者が適切な診療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医の受診は家族が同行している。緊急時や家族の都合が悪い時は職員が代行している。事業所の「状態記録」を持参し医師から「居宅患者情報」を受け職員間で共有し、その都度家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理はもちろん、病院の受診時は介護職員が付き添い医師の指示を良く聞き、看護職員・家族に分かりやすく説明し、医療に関する支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連携し、協力を得ている。入院中も職員が何度も病院に足を運び先生、看護師に状態を聞き、退院後直ぐに充実した在宅生活が送れるように、家族と共に退院前指導を受け、スムーズにもとの生活リズムが取り戻せるよう連携し支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度になってしまった場合には、医療機関・家族等と関係を強化し職員が一つになり細やかな支援をしている。死を特別視せず、生活の延長線上に死があることを職員間で認識し、重度化や終末期に向けた対応方針について関係者全員で共有している。	看取りはしない方針を説明している。重度化や医療処置の必要に応じて、医師や家族とその都度相談しながら支援する考えである。職員は救急時対応について消防署の指導を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時対応マニュアルを作成して、全職員が対応できるようにホール中心に設置しており、緊急時の対応については、ミーティング等で周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合避難訓練を夜勤帯を想定して実施している。訓練は地域住民にも参加して頂き地域住民との協力体制を重視した災害対策を目指しているが近隣の住民も高齢化が進んでいるので可能な範囲で支援して頂いている。	夜間想定も含めて避難訓練を実施している。緊急通報・地震振動体験をしている。県に要望し裏側の川の堤防を補強した。災害時の連絡網は完備しているが、水害時の避難場所として地域住民を含め、山手の施設と避難協定が不備である。	不時の災害に備え、地域住民と一緒に、訓練や安全な避難の話し合いを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	『和・顔・愛・語』を各職員に指導すると共に、利用者の尊厳・プライバシーを厳守するため、ケア会議・ホーム内研修等で接遇及び個人情報の取り扱いを徹底している。また、利用に際して事前に個人情報同意書を取り交わし、利用者・家族に説明をし、同意を得ている。	利用者の尊厳や誇りを守るために『和・顔・愛・語』が意味する接遇の方法を職員に研修や会議で指導している。笑顔で語り合うことを第一に考え、日々笑い声が耐えないにぎやかな雰囲気作りを、話し合い実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己実現のため利用者本位を徹底し、強制・否定をしず受容の共感の姿勢で処遇にあたるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	サービス提供の1日の流れはありますが日課の中で選択肢があり、ひとりひとりの考え・思いを優先し利用者さんが利用できるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ、整髪、化粧、おしゃれは本人の希望を優先し整容に努め、季節を考慮し支援しています(散髪は職員が行っております)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に地元で愛されている五平もちを食べていただき、懐かしさを思いつつ食事を楽しまれております。季節の行事、季節の食材を取り入れ、利用者と手作りの料理、おやつ作りと会話を大切に、利用者と一緒に楽しめるよう取り組んでいる。食事の時間は懐かしい演歌の有線放送を流している。	季節や行事に合わせ、利用者の好みや、普段食べなれた味つけで提供している。懐かしい歌を流したり、話題を弾ませたり、介助の必要な利用者の嚥下状態を確認しながら、急かせず声をかけている。外食も楽しみとしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの食事形態、健康状態、尿量・気分・体調等の情報を共有して水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後入歯を洗っていただきますが職員が再度洗いなおします、利用者さんによりポリデントで洗浄しております、場合によっては歯医者への往診を進めております。		

小規模多機能型居宅介護事業所 ケアホームあじさい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄パターンを把握できるよう、排泄記録に記録し、時間をみながらトイレ誘導をしています。利用者さんに応じた自立支援を行っています。	利用者一人ひとりの排泄パターンを記録に残し、トイレ誘導して無理のない自立支援につなげている。長期の泊まりの利用者の排泄状態は、家族と連携しながら、適切な排便コントロールに心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のリハビリの時間や食事のメニューを工夫し自然に排便ができる様取り組んでいる、便秘がひどい場合には家族に相談し主治医の指示に従ったマッサージ・食事療法などを実施しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に、ご家族・ご本人の希望を最優先しております、連泊の方は本人の意見を尊重しながら個々にそった入浴を実施しております。	洗いは段差をなくし畳敷にして、安全で暖かである。季節に合わせて柚子・ラベンダー・檜などを浮かべ香りを楽しんでいる。職員は利用者に合わせて会話をしている。毎日の足浴も好評である。入浴ボランティアを受け入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりの体調に応じて昼寝は自由にされている、昼寝されない方はリハビリ、歩行訓練、足湯など適度な運動により、快適な睡眠がとれるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が個々の服薬を把握しており、誤飲防止のため、次の日の薬を前日に確認セットを行い複数の職員で確認しております、昼勤・夜勤交代時には申し送りしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりの生活習慣を理解し散歩・カラオケ・塗り絵・歌など利用者にあつた支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	豊田市への四季桜見物・近所へのショッピングセンターへの買い物・散歩・ぶどう狩り・隣町への花桃見学・バラ園見学など定期的以外出を行っている、隣接する老健の花火大会にも参加しご家族にも支援して頂いている。	季節に合わせた外出計画が豊富である。個別の外出や、急な買い物にも対応している。天候にあわせ随時、散歩や地域の寺参りに出掛けている。	



小規模多機能型居宅介護事業所 ケアホームあじさい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭はご家族が管理しております、数人お金の管理能力がある方は必要に応じて支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話・手紙などは本人の希望を全面的に支援しており、電話時はプライバシーの面より個室へ誘導しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1年を通し四季が感じられるようにしております(タペストリー、有線放送、夏はよしず、季節の花、など季節感が感じられるように配慮し、心地よく過ごせるように工夫しています。	古民家を改修した事業所で、梁や鴨居に面影を残している。利用者と一緒に作った飾り物で季節感をあらわしている。ウッドデッキから、山川を眺め四季を感じたり、自由にくつろいだりする居場所がある。カラオケで楽しむことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	景色を見ながらくつろげるように、ウッドデッキに座椅子を設置したり、ホールのソファやテーブルで、ひとりひとりに合った場所で個人の考え、思いを尊重し自由に安全に過ごせるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お泊まりの時には、愛用の時計、ぬいぐるみなど、愛用品を飾るなどし、自室に居るような安心感をもって過ごしていただけるよう工夫しています。	洋室・和室の居室がある。帽子・上着・杖・カバンなどで自室とわかるよう配置している。居屋の向きなど、利用者の希望にあわせ固定せず時々部屋変えをして居心地よい工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員が利用者様ひとりひとりのできること、わかることを把握し自立した生活が送れるよう、全館手すりを設置しウッドデッキには20mの手すりも設置してあります。		